

国内研修レポート

私たちの所属する高齢者ボランティアサークルごまちゃんは、2/18~2/25に秋田県の藤里町へ行って、傾聴活動、体験を通しての地域福祉を学び、高齢化・過疎化の進む藤里町のまちづくりを学びに行ってきました。藤里町は、高齢化・過疎化以外にもひきこもりの問題もありました。100人以上のひきこもりの方がいると3年がかりで調査し、その人たちをどう外の世界へ連れ出し、社会復帰させるのかという大変な試みをしていました。菊池まゆみさん（藤里町社会福祉協議会会長）からお話を聞く時間があり、『彼らは働く意欲はあるが働く場所がない』とおっしゃっていて、その場所（こみっと）を作り、サポートすることでひきこもりの数が大幅に減少し問題が解消しつつあり、14年度末になると25人、77%余りも激減しひきこもりの状態から自立できた人たちがおよそ8割もいる藤里町の支援の取り組みは多くの人々の人生を助けたと言っても過言ではないと感じさせられました。実際に福祉の拠点となっている“こみっと”で就労している人たちの作る“こみっとうどん”を食べさせてもらったが、とてもコシがあり、香川県までうどんの作り方を習いに行ったり聞き、この事業にかける本気度が違うなと思いました。

私は藤里町へ行くのは3回目ということもあり、名前を覚えてくださったりや、道を歩いていると、車の中から『ごまちゃん？』と話しかけられたりなど嬉しいことが多くあったのと同時に、13年に渡って先輩たちが築き上げた藤里町との信頼関係が存在していることに気がつきました。私たち上級生が下級生に藤里町へ来た意味を理解してもらうために毎日その日のことを振り返る反省会も行い、より深く藤里町のことを互いに学ぶことができたのかなと感じました。

今回の合宿での1日目は、まず一人暮らしをしているお年寄りの独居訪問から行いました。11人を5つに分けてそれぞれ移動しました。私は去年と同じ人の所へ行きましたが、残念ながら顔は覚えてくれてはいませんが楽しくお話ができました。雪かきを毎日したり、犬の散歩や、木の伐採などアクティブに活動されていて83歳とは思えない元気な方でした。次にNPO元気塾に参加しました。明るく元気で住みよい町づくりを目指して、オール藤里で前向きに、プラス思考で活動していく団体です。活動内容として①棚田やホテルの棲む環境保全②木工品、わら細工、小物などの民芸品の事業化③景観保全④観光資源の発掘⑤情報発信⑥少子化対策として独身男女の出会いの場づくりと女性活動を支える活動等⑦子どもの健全育成などを行っています。また最近では、民泊を通して、県外

の人たちを集めて、サイクリングや釣りなどを行えるツアーを企画をして藤里町の魅力を県外の人たちに伝えています。

2日目は、金沢地区での交流会を行いました。毎年ごまちゃんがお世話になっている人たちとの交流であったのでとても現地の方々も喜んでくれていました。まず恒例のダンス（よっちょれ・ドンパン節・炭坑節）を披露して、最後に二人は若いを歌い、記念撮影をしてから、うどんをご馳走になり、自分は藤里町の歴史についてたくさんお話を聞かせてもらうことができ、貴重な体験をすることができました。そこから移動して、雪中キャベツ堀体験を行いました。雪で覆われた中からキャベツを掘り出すのはとても過酷で重労働であるのにも関わらず、そこで作業をしているのは高齢な女性1名だけであるがとても元気に作業をされていて、藤里町は元気な方が多いなと改めて感じました。最初キャベツは予想以上に見つからず、手こずりましたが、その後はしっかり見つけ、たくさん収穫することができ、出荷できそうにない傷ついたものを私たちが頂き、23日の交流会の日に私たちが料理をして振る舞うことになりました。

3日目は、まち自慢クラブに参加しました。ここでは農村環境改善センターに集まり、カラオケを集まった方々と楽しみました。みなさん歌がお上手で演歌を中心に歌われていました。学生にも歌わせてもらう機会があり、『上を向いて歩こう』『世界に一つだけの花』を歌わせてもらいました。その後、かんじき・スノーシュー体験をしました。かんじき・スノーシューというのは、雪の中に足が深く入るのを避けるために、履物の下に付けるもののことを言います。男子はかんじき、女子はスノーシューを履き雪深いところを進んでいくのですが、私にかんじきの締めが甘く何回も外れてしまい、社協の方に何回も縛りなおしてもらいました。また履いていて思ったことは昔の人の知恵は凄いなと思いました。その後は社会福祉協議会のデイサービスに参加しました。まず自己紹介から始め、八王子のデイサービスで作ったものと藤里町社協デイとのプレゼント交換を行い、そこから各テーブルに移動して、傾聴を行い、ダンスと歌を披露して3日目は終わりました。

4日目は、菊池まゆみさんから藤里町のお話をさせていただきました。菊池さんは法政大学教授陣とも交流があり、宮城教授、湯浅教授とのお話もされていました。上記でも述べたひきこもり支援、藤里町の現在の概況、H27年度より始まった、“町民全てが生涯現役を目指せる町づくりへの挑戦”など幅広い内容を私たちに聞かせてくれました。

ユニカールを行いました。自分は2回目だったので後輩よりも上手くできると思っていたのですが、去年より全然上手くできず、足を引っ張ってしまいましたが、一緒のメンバーの人たちが助けてくれたりして、楽しくゲームを行うことができました。ルールや規則などもたくさんあり、難しかったですが、地域住民の方々と一緒に楽しく汗を流せました。

5日目は、地域の方々とのバレーボールでの交流、通称“熟年バレー”を行いました。週3集まって練習していて、動きは軽やかで、反射神経もよく大学生チームは初戦負けてしまいました。その後は大学生・地域住民混合で試合を数回行いました。、何回か試合を重ねて慣れてきた頃にまた大学生チームと試合を行い、一試合だけ勝つことができました。残念ながら後輩だけで挑んだチームは負けてしまいましたが、去年の雪辱を晴らすことができました。去年はなんとか勝たせてもらって花を持たせてくれたのですが、今年は本気でプレーすると言っていたので、勝ててうれしかったのですが、しかし負け越しているので来年はもっと強いチームで挑んで欲しいなと感じました。その後は、羊の見学に行かせてもらい、赤ちゃんにミルクをあげたり、羊の知らなかったことなどを飼育員の方々から教えていただきました。夜は熟年バレーの方々、キャベツ体験の方、社協の職員さんなどとの交流会を開き、キャベツ料理、住民の方々が持参してきた料理などたくさんご馳走になりました。

6日目は、ぶなっちと言う高齢者生活支援ハウスにお邪魔して、傾聴をしました。去年もお話した方がいて、自分の顔を覚えていてくださり、とても嬉しかったと同時にまた来たいなと思いました。

今回の合宿のメインは体験を通して地域の方々との交流でした。ユニカールやバレーボールなどのスポーツでの交流であったり、雪中キャベツ堀体験をして、そのキャベツを使って色々な料理を作って、地域の方々と語りあう場を設けてもらったりして交流を深めることができました。また、傾聴活動もたくさん行い、勉強になることばかりの合宿であり、来年再来年も藤里町と法政大学が繋がっていきより親交を深めていければと思いました。